

## 「真の人類共通の文化遺産は、 平和と相互扶助の精神である」——中村哲

ペシャワール会会長／PMS総院長 村上 優まさひろ

はじめに

二〇一九年十二月四日に中村哲先生が亡くなられて二年が過ぎました。中村先生の魂と対話し、共に歩んだ二年間でした。中村先生の事業と希望を引き継ぐ具体的な体制も整い、現地PMSと日本側の技術支援チームとの交流も活発化しています。『PMS方式灌漑事業ガイドライン』は現地語（パシュトゥ語、ダリ語）への翻訳も終わり完成を待つのみです。そしてこれらの活動を支えてくださる会員・支援者が、八月の政変以降も増え続けており、私たちを力づけていただいています。心からの感謝を申し上げます。

タリバン政権が復活し、当初は様子うかがっていた現地PMS職員も三々五々職場に戻って全員が揃い、医療・農業・灌漑用水路事業は全て再開しました。事業再開は現地では朗報として歓迎され、バルカシコート取水堰の工事に着手した際に、地元の長老からジア副院長に「NGOに限らず、様々な事業が止まっている中で再開は他

にはない」と感謝の連絡が入りました。

世界によるタリバン政権への経済封鎖は、一九七九年のソ連侵攻に端を発し、近隣国や大国に翻弄され内戦に突入したアフガニスタンを想起させます。その時の二〇〇万人を超える人々の死を繰り返してはなりません。

「水が善人・悪人を区別しないように、誰とでも協力し、世界がどうなろうと、他所に逃れようのない人々が人間らしく生きられるよう、ここで力を尽くします。内外で暗い争いが頻発する今こそ、この灯りを絶やしてはならぬと思います」（ペシャワール会報一二六号）という言葉は今でも新しく、私たちを鼓舞します。

### 経済封鎖とアフガニスタンの混乱

アフガニスタンの政変に関して多くの報道がなされていますが、本当のアフガニスタンの現状——治安が回復し、人々が普通に移動している姿、タリバン政権復活を多くの国民が受け入れていること——は伝わっていません。外国のメディアやアフガニ

スタンに実際に関与した方々からは、「タリバンを含めた国づくり」という包摂的な視点も出てはいますが、多くの報道や意見は女性の人權や恐怖政治への懸念ばかりが突出しているのも事実です。現地事情は伝わらないまま、全ての責任はタリバンにあるかの如くのメディア報道には偏りを感じます。この冬には多くの人々の餓死・凍死が警告されています。このことこそを伝えるべきではないでしょうか。

米国にあるアフガニスタン中央銀行資産九〇億ドルが凍結され、世界銀行のアフガニスタン復興基金やIMF（国際通貨基金）のアフガニスタン供与金も凍結されています。日本からの送金やアフガニスタンにある銀行からの預金引き出しも困難になっています。九月二〇日になっても、企業やNGOなどは月二万五千ドルまで、それも現地通貨のアフガニでしか引き出せません。それすらも十月からは引き出しが困難となっています。

物価は高騰し、経済活動自体が回らなくなっています。PMSは九月に二万五千ドル分をアフガニで引き出して、作業員の八ヶ月分の賃金支払いと三カ月分の医薬品の購入にあてました。薬品は九月末で備蓄が底をつくところでした。用水路事業では重機のレンタルもドル建てなので、依頼ができない状態でした。

国連もこの事態を憂慮し、干ばつで飢餓



現地PMSとのオンライン会議で議論をかわす技術支援チーム

が迫っていると、人道支援を呼びかけています。経済封鎖と人道支援。なんという矛盾でしょうか。農業を復興し食糧自給率を上げるなど、国としての最低限度の自立を支援するという発想はほとんど見られません。

### オンライン会議を実施——現場からの声

八月十五日以降、現地PMSとは電話連絡のみでしたが、ようやく十月十三日にオンライン会議が実施できました。PMS側は医療、農業、灌漑水路、渉外、会計や総務などに携わるメンバー十名です。久しぶりに相互に顔を合わせ、メンバーが言葉

では言い表せない困難を越えて揃っていることに感謝しました。

職員には少数民族の出身者もあり、警戒を全て解くには至っていませんが、タリバンへの恐れは減ってきましたようです。カブールでの様子を報告し、経済封鎖のために失業者が増えている現実、パン（ナン）を買いに行く子ども供たちが寄ってきて「ナン」と手を差しよべるのが切なく悲しいと話していました。

以下、会議の概要です。

●まずジア副院長が、給与が八月・九月と払えていない中でも何一つ要求もせずに、事業再開への道筋を模索していたPMS職員を誇りに思うと話されました。職員一〇四名全員が事業継続のためにPMSに留まっていたのです。当初、政変に不安を抱く職員がいたのは事実ですが、この二カ月の間、事業再開に向けてのタリバンとの交渉や、クリニックに患者として訪れるタリバン政府メンバーと接する中で、徐々に安心が得られてきたようです。

●医師より、他のクリニックは供給できる薬がなくなり、遠方からPMSのドラエヌール診療所に来る患者が急激に増えてきたとの報告。八月までは多かった新型コロナ患者は減ってきたとのこと。中村先生と長年共に働いてきた看護師は、訪れたタリバンの役人にPMSの三五年に

わたる活動の歴史を話してきかせ、理解を得たとのことでした。

●総務担当者は、タリバン中央政府からのPMS活動に対する安全保障のレターを求めているが、それはまだ発行されていないこと、州レベルと異なり、旧政権の幹部の多くが逃亡した中央の行政機能は停滞している様子であるとの報告をしました。

●タリバンも灌漑事業への関心が高く、ジャララバードのPMS事務所を訪れ、「PMSのような仕事をしていたらもっとこの国は良くなっていた」と評価していました。そこで、バルカシコート堰の二期工事は十月七日にPMS所有の重機（掘削機二台、ブルドーザー二台、ダンプ四台）を活用、農業収入で燃料八千リットルを購入し、再開に踏み切りました。担当者はバルカシコート堰と用水路を冬期に完成させると意気込みを語っていました。

●農業は医療の次に事業再開を果たし、いまではフル稼働しています。二万本の柑橘類が植えられたガンベリ農園で収穫したレモン、搾乳したミルク、子牛、膨大な植林から得られる薪を販売するなどして一万六千ドルの収入があり、今後も期待されています。PMSの事業費の一部を自前で賄うことは中村先生の計画ですが、実際に水路事業再開の資金を作ったことは画期的で、報告を聞いた人々から拍手が起きました。



朝礼後の担当者会議。各部署の担当者が集まり、一日の予定や業務を確認し合う。(2021年10月24日)

### 鬼気迫る干ばつとの対峙

私たちは現地PMSとのオンライン会議を定例化しています。農業事業のオンライン研修を企画したり、現在建設中のバルカシコート堰を巡っては、PMS技術者と日本側の技術支援チームの検討会なども行なっています。具体的な事業の打ち合わせでは、経済封鎖下での重苦しさはありません。ダラエヌール診療所は、他の診療所が薬品や人材の不足から機能できないところを補って、診療活動に力を注いでいます。しかしながら、給与の支払い、重機などのレンタル料金の支払いなど難問も山積んでいます。

マルワリード用水路による灌漑地域は今年も稲刈りが終わり、収穫を喜ぶことができました。しかしそれは今のアフガニスタンでは例外的な「平和」です。多くは鬼気迫る干ばつとの対峙を余儀なくされています。事実、少し標高が上がったところ、ダラエヌール診療所のあるダラエヌール渓谷は、土漠化した畑が大干ばつがあった二〇〇〇年当時そのものの光景で続いています。マルワリード用水路から五〇mほどの高さにポンプで揚水しては、という提案がありました。雪解け水も早々となくなり、降雨は少なく、谷間ごとに貯水池を作る方策も今すぐの着手は困難です。

### 来春の収穫はない

今年干ばつのため、この地域でも麦の種播ぎができませんでした。これはすなわち、来春の収穫はないということです。土漠化の進行を前に手をこまねいているのが現実です。まずはこの干ばつに対してあらゆる叡智を集結しなければなりません。中村先生は「多少の打つ手が残されておれば、まるで生乾きの雑巾でも絞るように、対処せざるを得ない」と叱咤激励されるでしょう。「遭遇する全ての状況が(中略)天から人への問いかけである。それに対する応答の連続が、即ち私たちの人生そのものである。その中で、これだけは人として最低限

守るべきものは何か、(セロ弾きのゴーシュは)「伝えてくれる」(会報八一号より)——干ばつに加えて、思わぬところから来た経済封鎖という人為的な圧力のなかで、それでも人々が命をつなぐ営為を支えよ、という中村先生の声が聞こえてきます。

最後に、経済封鎖で困窮したタリバンがバーミアンの仏跡を破壊し、国際的な非難が起きた二〇〇一年に語られた中村先生のことば(『医者 井戸を掘る』より)を紹介します。「我々是非難の合唱に加わらない。私たちの信仰は大切だが、アフガニスタンの国情を尊重する。暴に対して暴を以て報いるのは、我々のやり方ではない。餓死者百万と言われるこの状態の中で、今石仏の議論をする暇はないと思う。平和が日本の国是である。少なくともペシャワール会PMSは、建設的な人道的支援を、忍耐を以て継続する。(中略)我々はアフガニスタンを見捨てない。人類の文化とは何か。文明とは何であるか。考える機会を与えてくれた神に感謝する。真の人類共通の文化遺産は、平和と相互扶助の精神である。それは我々の心の中に築かれるべきものである」

### ▼寄付をしてくださる皆さまへ

\*当会は法人格を持たない「任意団体」です。お送り下さったご寄付については税金控除の対象となりません。予めご了承ください。お願い致します。